

## 3. 参考文献リスト掲載の論文を探す



21

### 3. 参考文献リスト掲載の論文を探す

3章では参考文献リストに掲載された論文の探し方をご紹介します。  
参考文献リストとは、論文の最後に載っているリストのことです。  
論文を書くのに参考にしたり、引用したりした文献をまとめています。

ここでは、参考文献リストに掲載している論文を読みたい場合に、どのように探せば良いかをご紹介します。

## 3-1. 論文入手のために必要な情報

- 論文は雑誌に掲載されている  
⇒ **論文の住所**が分かれば入手できる  
**論文の住所 = 雑誌名、巻、号、ページ、出版年**  
※著者や論題も分かれば、より探しやすい
- 論文の住所リスト (= 参考文献リスト) の記入方法は、**投稿規定**や**執筆要領**によって雑誌ごとに決まっている  
⇒論文の住所の書き方は**雑誌によって異なる**



論文は、掲載されている雑誌名や巻、号、ページ、出版年などの、論文の住所とも言える情報が分かれば、探すことができます。

この論文の住所を、住所のリストである参考文献リストから読み取れるようになりましょう。

注意しておいてほしいのですが、参考文献リストの記入方法は、雑誌によって違います。論文の投稿規定や、執筆要領というもので定められています。

つまり論文の住所の書き方は雑誌によって異なるのです。

最初のうちはリストの見方に戸惑うかもしれませんが、慣れてくれば、簡単に読み取れるようになります。

それでは、参考文献リストの例を実際にいくつか見てみましょう。

## 3-3-1. 参考文献リストの例：日本語①

### 執筆要領

#### (4) 記載方法

##### 1) 論文等の場合

著者名(姓名)：題名、誌名、Vol.、No.、掲載ページ、発行年月の順とする。

日本コンクリート工学会、コンクリート工学論文集投稿要領-原稿執筆要領

### 実例

内海秀幸, 多田眞作, 足立一郎：水和反応の進行に伴う水分の化学ポテンシャルの変動, コンクリート工学年次論文集, Vol. 22, No.2, pp.21-30, 1986.3



23

まずは、日本語の論文の参考文献リストの例をご紹介します。

画面の上は執筆要領といって、この雑誌に掲載する論文の参考文献リストの書き方を定めたものです。

画面の下は、この執筆要領に沿って書かれた参考文献リストの実例です。

この例では、リストに掲載するときには著者名、論文のタイトル、その論文が掲載されている雑誌の名前、巻号、ページ、出版年...と、必要な情報が全て揃っています。一番分かりやすい例です。

## 3-3-2. 参考文献リストの例：日本語②

### 執筆要領

(3) 文献は次の例に準じて記す。論文(記事)題目は入れない。外国雑誌名の省略法は最近のChemical Abstractsに準じる。

例  
雑誌

- (1) 村上武次郎, 小川芳樹: 金属の研究, 5 (1928), 1-9.
- (2) S.R. Pati and M. Cohon: Acta Metall., 17(1969), 189-200.

日本金属学会. 日本金属学会会報「まてりあ」執筆要項

### 実例

上野俊吉, 林 礼明, 中嶋英雄: 高温学会誌, 34(2008), 51-55.



24

次の例を見てみましょう。

こちらは、執筆要領で「論文題目、つまりタイトルは入れない」と決められています。下の参考文献リストを見ると、論文のタイトルは書かれていませんね。ですが、高温学会誌という雑誌名と、34巻、51-55ページに載っている論文である、ということが分かります。これだけわかれば、論文を探すことができます。

### 3-3-3. 参考文献リストの例：日本語③

#### 実例

井上 他, 信学技報, IN2008-11, Jan. 2009.

- 雑誌名が省略形で記載されているケース
- 省略される雑誌はその分野のメジャー雑誌である可能性が高いので、研究室の先生や先輩に聞いてみましょう
- 正式名称は「電子情報通信学会技術研究報告」



どんどん進みましょう。

これは論文のタイトルが無く、雑誌のタイトルも省略されている例です。

省略される雑誌はその分野のメジャーな雑誌であることが多いので、研究室の先生や先輩に聞いてみると正式名称が分かるかと思います。

この例の場合、「信学技報」の正式名称は「電子情報通信学会技術研究報告」です。

### 3-3-4. 参考文献リストの例：日本語④

#### 執筆要領

雑誌については、和文、欧文にかかわらず英文表記とする。

#### (a)雑誌

雑誌名はISO/4に準拠した標準の省略形(イタリック体)を用い、巻番号、出版年、最初の頁番号を記載する。

日本鉄鋼協会、「鉄と鋼」執筆要領

#### 実例

和雑誌『表面技術』

T. Omi, M. Umatake and H. Yamamoto: *J. Surf. Finish. Soc. Jpn.*, 40(1989), 311.

A. Kubota, Y. Tsubota, H. Nakano, S. Oue, S. Kobayashi, T. Akiyama and H. Fukushima: *Tetsu-to-Hagané*, 85(1999), 728.

和雑誌『鉄と鋼』



26

次は少し変わっている例で、日本語の雑誌名も、英語表記で書きましょう、と執筆要領で決められています。

実例の上の論文は一見、英語雑誌に掲載された論文に見えますが、実際は「表面技術」という日本の雑誌に載っている、日本語の論文です。

ややこしいですが、たまにはこんな参考文献リストもある、ということ覚えておいてください。

## 3-4. 参考文献リストの例：英語

### 実例

M. Gaber and H.-J. Fitting, "Energy-depth relation of electrons in bulk targets by Monte-Carlo calculations," Phys. Status Solidi A 85(1), 195-198 (1984)

I. Hwang, C. R. McNeill, and N. C. Greenham, "Drift-diffusion modeling of photocurrent transients in bulk heterojunction solar cells," J. Appl. Phys. 106(9), 094506 (2009).

雑誌名が省略形であることが多い

各単語の冒頭数文字を記載してあとは省略、前置詞・冠詞を省略

例：Journal → J. Japan → Jpn.



27

今度は、英語の参考文献リストの例をご紹介します。

青色の線をひいている部分は、論文が載っている雑誌名です。

英語論文の場合、雑誌名は省略形であることが多いです。

たとえば、Journalは「J」という1文字だけで表されます。

慣れるまでは戸惑うかもしれませんが、書かれている通りにGoogleなどで検索すると、たいいてい雑誌の正式名称が分かります。

## 3-5. 新しい「論文の住所」：DOI

- DOI (Digital Object Identifier)
  - 論文や研究データセット単位で付与されるID  
例：10.1241/johokanri.57.741
  - URLの変更があってもDOIは不変なので、リンク切れが起こらない
- DOIから論文にたどり着く方法
  - DOIサイト <https://www.doi.org/> で検索
  - DOIの前に「https://doi.org/」をつける
  - Discovery ServiceやGoogle Scholar等、DOIで直接検索できるツールもある



28

ここで少し、新しい形の論文の住所についてご紹介します。

DOI(でいーおーあい)といいます。

DOIは、電子ジャーナルに掲載される論文のマイナンバーのようなものです。

論文のひとつひとつに与えられるIDなので、読みたい論文のDOIさえ分かれば、すぐに論文を探することができます。

DOIのサイトで検索するか、DOIの前に「https://doi.org/」をつけて検索してください。

## 3-6. CitationLinker

大阪大学附属図書館  
OSAKA UNIVERSITY LIBRARY

English 印刷画面 お問い合わせ

サイト内検索

大阪大学 電子リソースリスト

附属図書館 キャンパス外から利用する

電子ジャーナル 電子ブック データベース

雑誌タイトルで検索

で始まる を含む と一致

▶ 詳細検索 (電子リソースリスト) ▶ 提供元別リスト

キャンパス外から電子リソースを使う

eJournal eBook CitationLinker

1. フォームに記入してください。(※ 雑誌名, ISSNのどちらかは必須)  
(※)雑誌名  で始まる を含む と一致  
または、(※)ISSN   
年  巻  号  M誌ページ   
論文キーワード

2. または、DOIを記入してください。 ※ Digital Object Identifier = DOI 論文に付された固有の番号  
DOI

3. または、PMIDを記入してください。 ※ PubMed利用のID番号  
PMID

雑誌名、年、巻、ページ  
あるいはDOIを入力

Search Clear

© 2016 SIX by Ex Libris Inc. | Cookieポリシー

では実際に検索してみましょう。  
CitationLinkerを使えば、論文の情報を元に電子ジャーナルを見ることができます。

デモを開始します。



デモを開始します。

# CitationLinker (デモ)

※動画をご覧ください。



図書館Webサイトのクイックサーチというところで電子ジャーナルタブを選択し、下の方にある「詳細検索」をクリックしてください。  
すると、「電子リソースリスト」が開きます。  
この画面の、「CitationLinker」というタブをクリックします。

このような画面に変わりました。  
ここに、読みたい論文の情報、例えば雑誌名、年、巻、ページなどを入力します。  
または、3-5でご紹介したDOIを入力することもできます。

ここでは、2章のデモ、Discovery Serviceのまとめて検索で探した雑誌の、2018年、62巻11号、1987ページに載っている論文を検索してみます。

Searchというアイコンをクリックすると、「電子リソースリスト」の画面が開きます。  
2つヒットしました。  
雑誌名を確認して、上をクリックします。  
あとは、2章のデモでご説明した方法と同じです。  
「電子リソースリスト」の画面から、電子ジャーナルのサイトへ進みます。  
このように、CitationLinkerを使って、論文の情報を元に電子ジャーナルを見ることができます。

---

## 【デモの例】

*International Journal of Biometeorology* 2018 62(11) p.1987

デモを終了します。



32

デモを終了します。

## 4. 論文を入手する



33

### 4. 論文を入手する

4章では論文の入手方法についてお話しします。

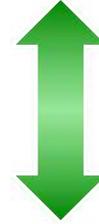
## 4-1. 入手手段の検討

① 電子ジャーナルを  
ダウンロード (PDF、HTML)

② 紙の雑誌からコピー

③ 複写物を取寄せ  
ILL (InterLibrary Loan)  
= 図書館相互利用サービス

ラク・はやい・安い



手間・時間・お金  
がかかる

①→②→③の順番に入手可否を確認しましょう



34

1章でお話したように、論文の多くは学術雑誌に掲載されています。  
学術雑誌には紙媒体と、電子ジャーナルの2種類があります。

電子ジャーナルはこのスライドの①にあたります。  
論文をダウンロードできれば、最も早く、効率的です。  
電子ジャーナルがなければ、②紙の雑誌が阪大内にはないか探してコピーします。  
それもなければ、③阪大以外の機関から、複写物を取りよせるILLというサービスを利用  
します。

## 4-2-1. 電子ジャーナルや紙の雑誌を探す①



まず、探している雑誌が阪大にあるかどうかを確認しましょう。  
電子ジャーナルも紙の雑誌も、図書館の蔵書検索、OPACで検索することができます。  
ご存知の方も多いと思いますが、OPACは図書館のトップページから利用できます。  
検索ボックスに雑誌名を入れて検索しましょう。

## 4-2-2. 電子ジャーナルや紙の雑誌を探す②

大阪大学 CiNii Books

検索画面 > 検索結果一覧  
該当件数: 19 件 (rep prog ph)

並び順: 関連度

全選択 | メール読書 | ファイル出力 | EndNote Basic出力 | 選択した資料の詳細表示

1. 電子ジャーナル **電子ジャーナル**  
Reports on progress in physics  
ENCLAND : IOP Pub

2. 電子ジャーナル **電子ジャーナル**  
KURRI progress report  
Osaka, Japan : Research Reactor Institute, Kyoto University  
雑誌ID=0300070163

3. 雑誌 **紙の雑誌**  
Reports on progress in physics  
London : Physical Society  
NCID=AA0081292X

配架場所	所蔵巻号	年次	請求記
総合図	1-28,55-57	1934-1994	
総合図-A棟1階 理工系雑誌	29-54	1966-1991	
理泉	64-80,81(1)+	2001-2017	

所蔵件数: 5件 | 続きを見る

こちらがOPACの検索結果一覧です。  
このように、電子ジャーナルも紙の雑誌も一緒にヒットします。  
アイコンの色と形が少し違うので、見分けがつかと思います。

### 4-2-3. 電子ジャーナルや紙の雑誌を探す③

**電子ジャーナル** ②

電子版が見つかりました。 Osaka U.

電子リソースリストが開く

本文を見る

Institute of Physics IOPscience extra でフルテキスト

年: 巻: 号: 開始頁: GO

Available from 1934 volume: 1 issue: 1

GET!

PDF

利用可能範囲を確認

**紙の雑誌**

所蔵巻号をクリックすると、詳細が確認できます。

配架場所	所蔵巻号	年次
総合図	1-28,55-57	1934-1994
総合図-A棟1階 理工系雑誌	29-54	1966-1991
理資	64-80,81(1)+	2001-2017
理工学図	1-42	1934-1979
核物理セ図	25-45	1962-1983

配架場所と所蔵巻号を確認

論文を探すときには、その論文がどの雑誌の何巻何号に掲載されているか、という「論文の住所」が大切でしたね。

OPACで検索したら、電子ジャーナルの場合も紙の雑誌の場合も、その巻号が利用できるかどうかをきちんと確認するようにしてください。

## 4-3. 複写物の取寄せ（ILLサービス）

- 学内の他の図書館・図書室、他大学などの機関から**複写物の取寄せが可能**です
- どこから入手できるかは図書館で調べます。「見つからない」と思ったら、カウンターでご相談ください（平日9時～17時）
- 研究室の予算（運営費交付金）での取寄せも可能です。その場合、研究室の講座主任の先生に了承を得てからお申込みください（申込書の提出が必要）

	白黒/枚（円）	カラー/枚（円）	所要日数（目安）
学内（公費）	10円	50円	1～3日
学内（私費）	25円	65円	1～3日
学外から	35～55円+送料	100～200円+送料	2～7日
海外から	2,500～5,000円/1件		2週間～1,2ヶ月

※学外、海外の複写料金は目安です



雑誌をOPACで検索したけれど、紙の雑誌も電子ジャーナルもない、ということもあります。

そんな場合は、そこで諦めるのではなく、複写物の取寄せ、ILLサービスを使ってみてください。

ILLサービスでは、豊中キャンパスや箕面キャンパスから、あるいは他の大学から、論文のコピーを取り寄せることができます。

ただし、有料のサービスです。

コピー代金と、他大学からの取寄せの場合は送料もかかります。

また取り寄せに数日かかるので、その点は特に注意してください。

ILLサービスは図書館のカウンターや、Webから申し込むことができます。

ここでは、Webから申し込む方法をご紹介します。

## 4-4. WebからのILLサービス申込み

### 学内の図書館へ依頼する

所蔵情報を非表示

所蔵巻号をクリックすると、詳細が確認できます。

配架場所	所蔵巻号	年次	請求記号	コメント	複写取寄	公費eDDS
総合図	8-17,50-51	1963-2006				
総合図-A棟1階 理工系雑誌	23-25	1978-1980				
生命図	23-26	1978-1981				

### 研究室、学外へ依頼する



大阪大学附属図書館 OSAKA UNIVERSITY LIBRARY

English 印刷画面 お問い合わせ

サイト内検索

利用案内 資料を探す 学習・研究支援 図書館について 4つの図書館 Webサービス

- 貸出・予約状況照会
- 文献複写・現物貸借申込み
- 文献複写・現物貸借申込み状況照会
- 利用者情報編集
- 施設予約
- 講習会・ガイダンス申込み
- 講習会・ガイダンス申込み状況照会

蔵書検索 電子ジャーナル 電子ブック データベース まとめて検索

キーワードで蔵書検索

詳細検索 (OPAC)

図書館WebサイトからILLサービスを申し込むことができます。  
学内の図書館や研究室、または学外に依頼することができます。



39

デモを開始します。



デモを開始します。

## WebからのILLサービス申込み（デモ）

※動画をご覧ください。



41

図書館Webサイト、トップページの右上に、「Webサービス」というメニューがあります。ここをクリックして「文献複写・現物貸借申込み」をクリックしてください。ログイン画面が表示されます。みなさんがKOANIにログインするときに使うIDとパスワードを入力して、ログインします。

あとは画面の指示に従うことで、他のキャンパスや、阪大にない論文の取寄せを申し込むことができます。OPACで検索しても見つからない場合、ILLサービスを利用することも選択肢に入れておいてください。

学内の図書館の場合、検索結果にある「複写取寄」ボタンをクリックしても申し込みが可能です。

デモを終了します。



42

デモを終了します。

## 今回のまとめ

- 論文とは何かを知る
  - ある研究分野において、問題点を示し、それに対する答えを、論拠を挙げて説明する文章
  - 主に学術雑誌に掲載されている
- タイトルから論文を入手する方法を知る
  - Discovery Service
  - Google Scholar
- 参考文献リストから論文を入手する方法を知る
  - 論文の「住所」を読み取る
  - CitationLinker



43

### 今回のまとめ

論文は、主に学術雑誌に掲載されています。

検索するときには、その論文が何というタイトルの「雑誌」の、何「巻」の、何「ページ」に掲載されているかを調べてから、阪大で入手できるかどうかを確認します。

論文のタイトルが分かっている場合は、まず阪大のネットワークが使える場所からインターネットに接続します。

次に、Discovery Serviceかgoogle scholarで、論文のタイトルで検索します。

検索結果から電子リソースリストを確認し、阪大で入手できるかを調べます。

参考文献リストに掲載された論文を探す場合、まずは参考文献リストを読み取れるようになってください。

論文を入手するためには、論文の住所ともいえる、雑誌名や巻号、ページといった情報が必要です。

必要な情報を入手したら、CitationLinkerから検索しましょう。

## 文献のことで困ったら図書館へ

- 参考文献リストに書いてあることがよくわからない
- 欲しい文献をどうやって手に入れるかわからない

・・・など、

お気軽にご相談ください！

理工学図書館カウンター

平日9:00-17:00

[tosyo-rikoh-desk@office.osaka-u.ac.jp](mailto:tosyo-rikoh-desk@office.osaka-u.ac.jp)



では、今回の講習会はこれで終了です。

今回ご紹介したことをぜひ実践していただいて、分からないことがあれば遠慮なく図書館にご相談ください。